人気が高い　オルゴール

家庭

楽器というにはちょっと素朴すぎ、音響玩具と呼ぶにはかわいすぎるオルゴール。最近、その人気が高い。ブームの火つけ役となったのは手回し式の手のひらに乗る小さなシリンダーオルゴール。その一方で、すでに生産が打ち切られた大型のクラシック・オルゴールがその豊かな音色で新たなファンを得ている。この古くて新しい音楽の記録、再生装置に耳を傾けてみよう。

人気の手回し

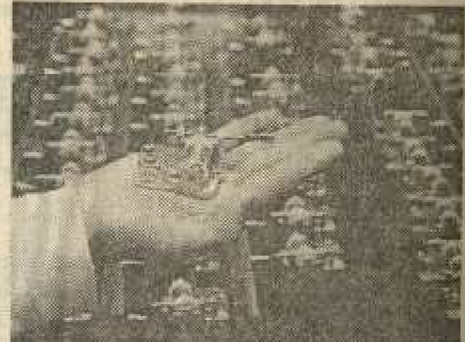
きょう十四日はホワイトデー。バレンタインデーのチョコのお返しに男性がキャンディを贈るのが本来の習わし。最近はサマ変わりしてお返しの種類も豊富なようだが、今年人気を集めたのが手回し式の小さなオルゴール。昨年二月に発売され、夏からヒット商品に。

東京新宿区の百貨店にあるインショップ形式のオルゴール売り場は一五平方㍍に満たないが、平日でも客でごった返すほど。店頭に並んでいるのが手回し式オルゴール。耳を近づけながらハンドルをクルクル回す姿が絶えない。

特にホワイトデーを前にした先週後半はサラリーマンふうの男性が増え、一度に五個、六個とまとめ買いする光景も。一日に百五十個以上も売れる日もあるという。「オルゴール売り場といえば、かつては中年のご婦人客と決まっていたのが、若者、とくに男性が増えています。デジタル時計万能の中でアナログ時計が見直されたようにメカニックで自分の手で音楽を生み出せる手回しが新鮮な感覚に受け取られているようです。六百円という手軽さも魅力のひとつ」と担当者は説明する。

ヒット商品「手回し式」　ホワイトデーに売れる

客がたえないオルゴール売場（東京・伊勢丹新宿店で）


ブーム呼ぶ手回し式オルゴール

国産の高級オルゴール

歴史

中世、ヨーロッパで音楽を記録して、再生してどこにいても聴けないものかという願いがオルゴールを生む契機に。教会の鐘やベルを自動的に鳴らす方法が考え出され、十六世紀のゼンマイの発明で時計と共にオルゴール作りの道が開かれた。

一七九六年には、現在のシリンダータイプの原形である櫛（くし）歯とピン付きシリンダーで音楽を生み出す方式が出来上がった。

オルゴールは、まだ時計の付属的なものだったが、一八三〇年代から音楽の再生に重点を置いたものが作られるようになった。ヨーロッパ各地でオルゴール作りの花が咲いたが、一八七七年、エジソンが発明した蓄音機がオルゴール産業にひとつの時代のくぎりをつけることになってしまった。改良が進む蓄音機とレコードの発達によってオルゴールは徐々に衰退、一九三〇年代に入ると勝負がついた格好で、約一世紀にわたる華やかなオルゴール産業は幕を閉じた。

日本で

わが国最初のオルゴールは、江戸時代に渡来。嘉永年間（一八四八－五四年）に輸入され、文久年間（一八六一－八四年）に時計師小林伝四郎が国産のオルゴールを作ったといわれる。

しかし日本ではオルゴール製作技術は育たず、戦前まで大半が欧米からの輸入。現在、私たちが楽しんでいるオルゴールは戦後の昭和二十三年、平和産業として作り出されたのがルーツだ。

生産王国日本

現在のわが国はオルゴール生産王国。その頂点に立つのが三協精機製作所（東京都区）。長野県の工場などで国内の九〇％、全世界の八〇％のシェアを同社一社で占めている。昨年の年産台数は約六千万台、今年は六千四百万台の見込みという。オルゴールの高さを二㌢平均にすると、富士山の三百三十倍という量。国内需要はこのうち約一千万台で、他は輸出だ。

オルゴール事業部の上條馨総取締役事業部長は「レトロブームで素朴なオルゴールが反響を呼んだこと、知能化機器全盛の中で心の栄養剤として見直されたこと、メーカーがブームに乗り、ブームを作り出す努力――この三つの相乗作用が最近のオルゴールブームではないか」と分析する。

売れる商品は一万－三万円の高級機種と六百－三千円の低価格品の二極分化が起きているという。

音色も実に多彩

演奏が聴ける

今から半世紀以上前に全盛をきわめたオルゴールは洗濯機なみのサイズもあって音色も実に多彩。それらアンティーク・オルゴールのマニアも多いが、演奏を公開しているところがある。主な所は次の通り。

▽オルゴールの小さな博物館（東京文京区目白台3の25の13）。開館は土、日曜の午後。三回の演奏がある。入館料一〇〇〇円。予約が必要（03・941・0008）。同館付設のホール「ピアノフォルテ」は月－土午前十時－午後五時。午後二回の演奏がある。入館料五〇〇円。

▽ホール・オブ・ホールズ（山梨県北巨摩郡高根町清里三五四五）。開館日は五月のゴールデンウイークと七月二十一日－九月十五日の間は午前九時－午後七時。それ以外は火曜休館で午前十時－午後六時。三十分ごとに一回演奏。入館料＝子供（四歳－小学生）五〇〇円、大人八〇〇円。（電話0551・48・3535）

▽ファミリア北野坂ハウス（神戸市中央区北野坂二の八の二）。八月六日から十六日間一般公開。入場料三〇〇円。他にティールームは客の要望に応じて演奏。午前十一時－午後六時（月曜定休）。（電話078・222・3535）

▽星ビル・オルゴール・ティーサロン（広島市中区紙屋町一の六の九）。十五分置きに演奏。十二月三十、三十一日と元日以外無休。午前十一時－午後八時半。（電話082・249・1941）

細見　くらし　再見
細見　くらし　再見